

令和 2 年 3 月 13 日

岡山大学病院におけるダイバーシティ推進の取り組み

◆発表のポイント

- ・岡山大学病院はダイバーシティ推進に取り組み、特に育児・介護などのライフイベントと勤務を両立できるような柔軟な働き方を取り入れ、全国的にも先駆的な取り組みをしています。
- ・これらの取り組みにより、特に女性医師がさまざまな場面で活躍する機会が増えてきています。
- ・岡山大学病院には今年度ダイバーシティ推進センターを設置し、さらに全職種において取り組みを推進していく予定です。

女性の社会での活躍が期待され、働き方改革が叫ばれていますが、現実には仕事と家庭との両立は容易ではなく、日本のジェンダーギャップ指数は国際的にも低い状況が続いています。

岡山大学病院では育児、介護などのライフイベントによって職を離れることなく、柔軟に働くことができる勤務体制を、特に医師において整えてきました。また、育児、介護等で空白がある医師が現場復帰するためのさまざまなトレーニングや、限られた時間のなかでも最新の知識を得られる e-ラーニングの整備なども行っています。これによって、女性医師が離職することなくキャリアを継続するだけでなく、多方面で活躍することが可能となりました。また、女性医師は岡山大学病院で活躍するのみならず、地域医療の現場でも地域社会に貢献しています。

岡山大学病院の取り組みは、性別にかかわらずお互いに助け合い、医療人として社会貢献をするための一歩であり、職種によらず応用可能な取り組みでもあります。また、組織の中でお互いの多様性を認め合うことは、患者さんに対する更なる理解やより良い医療にも結びつくものといえるでしょう。

<背景>

女性の社会での活躍が期待され、働き方改革が叫ばれていますが、現実には仕事と家庭との両立は容易ではなく、日本のジェンダーギャップ指数は国際的にも低い状況が続いています。医師は他職種と比べても抜きん出た長時間労働であることが知られ、特に働き方改革に困難が伴うことも予測されていますが、より良い医療の提供を可能とするためには、医療人自身の健康を守ることも重要です。厚生労働省の医師の働き方改革に関する検討会は、緊急的な取り組みとして「女性医師の支援」を挙げています。これは、過酷な医療現場で育児などとの両立が難しいため、職を離れる女性が少なくなく、そのことがさらに現場の人手不足に拍車をかけるといった悪循環に対処するためにも、女性医師が働きやすい職場をつくることが重要と考えられているためです。岡山大学病院では、2007 年から文部科学省医療人 GP に採択されたことを契機に、病院を挙げて女性医師のキャリア支援を行っています。この取り組みは働き方改革にも直結するものとなっており、近年一層注目されています。

PRESS RELEASE

<研究内容、業績>

岡山大学病院では 2008 年から育児、介護などの理由でフルタイム勤務が難しい医師に対して、オーダーメイドで勤務時間を決めることのできる柔軟な勤務体制を導入しました。当初 2 年間はトライアルとして行い、2010 年からは病院の規則に設定し、男女ともに利用でき、育児のみならず介護での利用も可能となりました。同制度を利用した医師はこれまで 150 人を超え、女性医師の割合も 18%程度から 27%程度に上昇し、育休取得率も上昇しています。また、同制度は子ども 1 名につき 3 年間利用できますが、この制度を利用した後は地域の病院で勤務を継続する方も多く、地域の医療を支える人材を輩出する仕組みともいえます。さらに、本取り組みを地域の現場で展開して地域医療の一層の発展に尽くす方もいるなど、さまざまな形で女性医師の活躍を促進しており、このような取り組みは単に育児や介護によって職を離れることがなくなる、といった短期的効果にとどまらず、社会への貢献というより大きな意義があります。育児、介護などの事情を有する方がチームの一員として働くことが真のダイバーシティの推進につながり、職場の意識改革につながることも分かってきました。

また、柔軟な働き方の導入に加えて、国立大学系としては全国 5 番目という早い時期に病児保育ルームを立ち上げ、職種を問わず働きやすい環境づくりに取り組んできました。病児保育は子どもを持ちながら働く方にとっては必須といえるでしょう。また、ブランクがある医師が現場復帰するためのさまざまなトレーニングや、限られた時間のなかでも最新の知識を得られる e-ラーニングの整備なども行ってきました。このような取り組みはさまざまな職種で応用可能と考えられます。

<展望>

岡山大学病院には昨年 4 月にダイバーシティ推進センターを設置し、これまで特に医師において進めてきた取り組みを多職種も含めて一層発展させる予定です。また、女性医師がその特性を生かして患者さんに一層貢献できるよう、女性ヘルスケア外来（内科）の立ち上げなども予定しています。

<略歴>

1972 年生まれ。1997 年岡山大学医学部卒業。2003 年同大学院（内科学第三講座）修了。岡山大学病院第三内科（腎免疫内分泌代謝内科）、総合内科・総合診療内科等で勤務。2010 年岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座教授。2020 年岡山大学病院ダイバーシティ推進センター教授、同センター長。専門は総合内科、糖尿病。



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



<お問い合わせ>

岡山大学病院ダイバーシティ推進センター
教授 片岡仁美

（電話番号）086-235-6963

（FAX）086-235-6834